

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：金融市場の将来

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：木下 信行

所属：現東京前金融取引所社長、元日本銀行理事

論文要旨（800字から1200字、英文の場合は300から450語）

筆者は、昨年6月下旬以降、東京金融取引所の社長に就任している。この会社は、社会的位置づけは金融市場インフラという大きなものであるが、経済的実態は従業員80人強の中堅企業であり、両者の間には大きなアンバランスがある。業務内容は、金利や為替等の金融派生商品の取引サービスであるが、長期に渡る極度の金融緩和を主因として、残念ながら業績は芳しくない。社長としての経営責任に加え、設立当初に担当していた行政官としての責任もあり、立て直しに向けて悪戦苦闘の日々を送っている。こうしたなかで、筆者は、当社のみならず、金融サービスを営む企業全体について、資金需要の低迷や低金利の継続等の循環要因以上に、構造要因が大きく影響していると考えられるようになった。つまり、情報通信技術の革新に伴うクロスセクター、クロスボーダーの競争激化に晒されており、かつての金融サービスに対応して築いてきたレガシーからの転換を迫られているという認識である。

本稿では、その一端を整理することとしたい。